

2022 年 3 月期(2021 年度) 連結決算について

1. 2021 年度連結決算・・・営業収益が 3 期ぶりの増収、損失は改善

2021 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、国際航空貨物の取り扱いが好調に推移していることに加え、日本国内におけるワクチン接種が一定程度進捗しているに伴い、国内線の需要が回復していること等から、航空取扱量が増加した結果、営業収益は 829 億円となり、3 期ぶりの増収となりました。

なお、依然として厳しい経営環境の中で、最大限のコスト削減を図ったものの、営業損失は前期の 575 億円から 79 億円改善の 495 億円、経常損失は前期の 573 億円から 69 億円改善の 504 億円、親会社株主に帰属する当期純損失は前期の 714 億円から 189 億円改善の 524 億円となり、通期として 2 期連続の損失を計上しております。

(単位: 億円)

科目	2020 年度	2021 年度	増 減	
	実績 A	実績 B	金 額 B-A	% B/Ax100
営 業 収 益	718	829	111	115.5
営 業 費 用	1,293	1,324	31	102.4
営 業 利 益	△575	△495	79	-
経 常 利 益	△573	△504	69	-
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	△714	△524	189	-

【参考】2021 年度航空取扱量実績

区分	2020 年度	2021 年度	増 減	
	実績 A	実績 B	数 量 B-A	% B/Ax100
航空機発着回数 (万回)	10.6	13.8	3.1	129.5
国際線	8.6	10.4	1.8	120.8
国内線	2.1	3.4	1.3	165.6
航空旅客数 (万人)	325	647	322	199.2
国際線	127	235	108	185.3
国内線	198	413	214	208.0
国際航空貨物量 (万トン)	209	261	52	125.0

(注) 航空取扱量は、単位未満を四捨五入して表示しています。

2. 2022 年度連結業績予想・・・2 期連続の増収及び損失の改善

2022 年度の航空取扱量見通しは、国際線は世界各国や日本の渡航制限緩和等により、年度末に向かって徐々に回復し、国内線は、足元で回復の兆しが見え始めていることから、LCC を中心に堅調に推移すると想定しております。また、国際航空貨物の取り扱いについても、引き続き海上輸送の混乱に伴う航空貨物へのシフト等があり、好調な状況が継続すると想定しております。

その結果、営業収益は 2 期連続の増収、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失は前期比で改善すると予想しております。2022 年度においても、更なる機能強化事業等の中長期的な成長投資に係る不可避免的な費用の増加もありますが、引き続き、空港の安全と安定運用を大前提に最大限のコスト削減を継続し、業績改善に努めてまいります。

なお、航空需要の回復は依然先行き不透明な状況にあることから、実際の業績は、これら航空需要等経営環境の変化により大きく異なる結果となる可能性があります。

【参考】2022 年度の航空取扱量見通し及び業績予想

区 分	2021 年度	2022 年度	増 減	
	実 績 A	見通し B	数 量 B-A	% B/Ax100
航空機発着回数（万回）	13.8	20.1	6.3	145.8
国際線	10.4	15.6	5.3	151.0
国内線	3.4	4.4	1.0	129.7
航空旅客数（万人）	647	1,625	978	251.1
国際線	235	993	758	423.3
国内線	413	633	220	153.3
国際航空貨物量（万トン）	261	262	1	100.4

（注）航空取扱量は、単位未満を四捨五入して表示しています。

（単位：億円）

科 目	2021 年度	2022 年度	増 減	
	実 績 A	予 想 B	金 額 B-A	% B/Ax100
営 業 収 益	829	1,285	455	155.0
営 業 費 用	1,324	1,557	232	117.6
営 業 利 益	△495	△272	223	—
経 常 利 益	△504	△302	202	—
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	△524	△330	194	—

（注）決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

3. セグメント別 2021 年度連結決算／2022 年度連結業績予想

(単位:億円)

	2020 年度	2021 年度	増 減		2022 年度	増 減	
	実績 A	実績 B	金 額 B-A	% B/Ax100	予 想 C	金 額 C-B	% C/Bx100
営 業 収 益 ※	718	829	111	115.5	1,285	455	155.0
空港運営事業	348	413	65	118.7	682	268	164.8
リテール事業	83	90	6	107.5	285	194	316.0
施設貸付事業	255	295	39	115.5	287	△8	97.2
鉄 道 事 業	29	29	0	100.1	29	△0	97.8
営 業 費 用	1,293	1,324	31	102.4	1,557	232	117.6
営 業 利 益	△575	△495	79	-	△272	223	-
空港運営事業	△594	△551	43	-	△398	153	-
リテール事業	△99	△92	7	-	0	92	-
施設貸付事業	112	140	28	125.4	119	△21	84.7
鉄 道 事 業	7	7	△0	99.1	6	△1	80.6
経 常 利 益	△573	△504	69	-	△302	202	-
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	△714	△524	189	-	△330	194	-

※ 外部顧客に対する売上高

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

■ 2021 年度連結決算

- 空港運営事業 : 航空機発着回数及び航空旅客数が増加したこと等から、空港使用料収入は前期比 5.9% 増の 216 億円、旅客施設使用料収入は前期比 93.4% 増の 39 億円となり、営業収益は前期比 18.7% 増の 413 億円、営業損失は 551 億円となりました。
- リテール事業 : 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催期間中に売り上げが増加したこと等から、子会社が運営する直営店舗の物販・飲食収入は前期比 1.8% 増の 46 億円、構内営業料収入は前期比 19.0% 増の 18 億円となり、営業収益は前期比 7.5% 増の 90 億円、営業損失は 92 億円となりました。
- 施設貸付事業 : 新型コロナウイルス感染症の水際対策に係る新規貸付等により、営業収益は前期比 15.5% 増の 295 億円、営業利益は前期比 25.4% 増の 140 億円となりました。
- 鉄道事業 : 線路使用料収入等に変化がないことから、営業収益は 29 億円、営業利益は 7 億円と前期並みとなりました。

■ 2022 年度連結業績予想

- 空港運営事業 : 航空機発着回数及び航空旅客数が増加することを想定しており、空港施設使用料収入、旅客施設使用料収入が増加し、営業収益は 268 億円の増収となり、営業損失は前期比 153 億円改善の 398 億円となる見通しです。
- リテール事業 : 国際線・国内線ともに航空旅客数が増加することを想定しており、営業収益は 194 億円の増収となり、営業利益は収支均衡となる見通しです。
- 施設貸付事業 : 新型コロナウイルス感染症の水際対策に係る貸付面積の減少を想定し、営業収益は 8 億円の減収となり、営業利益は前期比 21 億円減の 119 億円となる見通しです。
- 鉄道事業 : 線路使用料収入等に変化がないことから、営業収益は 29 億円、営業利益は 6 億円と前期並みとなる見通しです。

4. 財政状態

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

<連結貸借対照表>

(単位: 億円)

科 目	2020 年度期末	2021 年度期末	増 減	
	実 績	実 績	金 額	%
流 動 資 産	4,541	3,496	△1,044	77.0
固 定 資 産	7,584	8,755	1,170	115.4
資 産 合 計	12,126	12,251	125	101.0
流 動 負 債	1,092	1,497	405	137.1
固 定 負 債	7,635	7,899	263	103.4
負 債 合 計	8,728	9,396	668	107.7
純 資 産 合 計	3,397	2,855	△542	84.0

- 資産合計は、更なる機能強化事業の土地取得等により、前期末比 1.0%増の 1 兆 2,251 億円となりました。
- 負債合計は、短期借入金の増加や社債の発行等により、同 7.7%増の 9,396 億円となりました。
- 純資産合計は、同 16.0%減の 2,855 億円。自己資本比率は、同 27.4%から 4.8 ポイント減少し 22.6%となりました。

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

<参考: 長期債務の推移>

(単位: 億円)

科 目	2020 年度 期末	2021 年度 期末	増 減		平均金利	
	実 績	実 績	金 額	%	2020 年度 期末	2021 年度 期末
有利子債務	7,773	8,026	253	103.3	0.56%	0.50%
社債	3,690	3,950	260	107.0	0.53%	0.41%
長期借入金	4,083※	4,076※	△7	99.8	0.58%	0.58%
無利子債務	-	50	50	-	-	-
長期借入金	-	50	50	-	-	-
合 計	7,773	8,076	303	103.9		

※財政融資資金の借入残高(4,000 億円)を含む

5. キャッシュ・フローの状況

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

(単位: 億円)

科 目	2020 年度	2021 年度	増減
	実 績	実 績	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	△296	△86	209
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,362	△247	3,114
フリー・キャッシュ・フロー	△3,658	△334	3,324
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,858	499	△4,358

- フリー・キャッシュ・フローは、334 億円のキャッシュアウト(前期比 3,324 億円減)となりました。

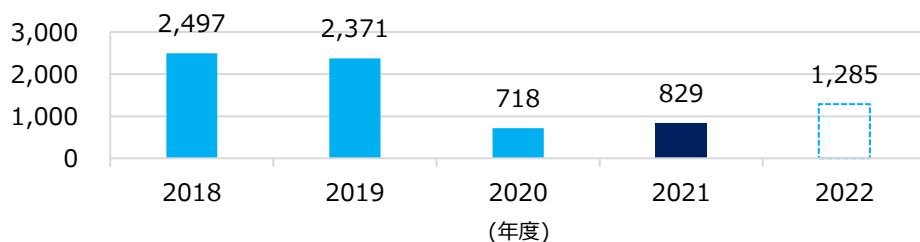
- 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純損失の改善等により、キャッシュ・アウトは前期に比べ 209 億円減の 86 億円となりました。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、譲渡性預金の払戻しにより、キャッシュ・アウトは前期に比べ 3,114 億円減の 247 億円となりました。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、前期に財政融資資金等の調達があったことにより、キャッシュ・インは前期に比べ 4,358 億円減の 499 億円となりました。

参考

【連結決算推移】 2022 年度通期は予想

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

営業収益



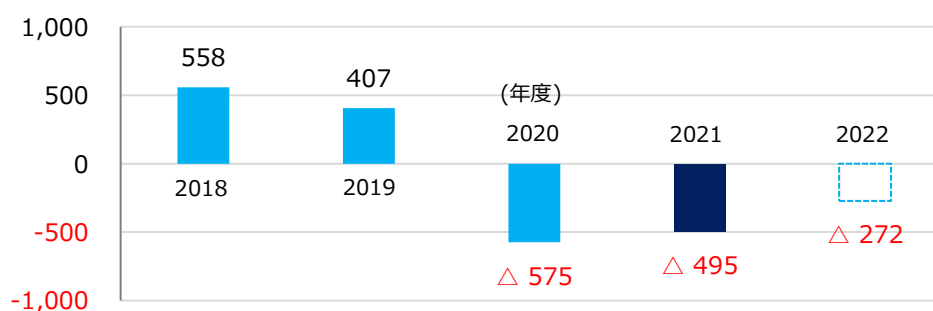
<2021 年度>

・3 期ぶりの増収

<2022 年度通期予想>

・2 期連続の増収となる見通し

営業損益



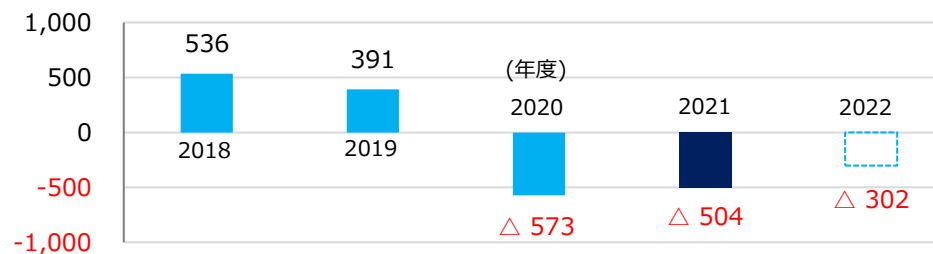
<2021 年度>

・2 期連続の損失

<2022 年度通期予想>

・3 期連続の損失となる見通し

経常損益



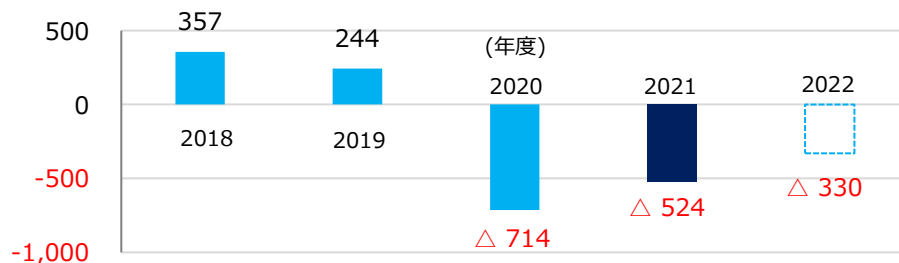
<2021 年度>

・2 期連続の損失

<2022 年度通期予想>

・3 期連続の損失となる見通し

純損益*



*親会社株主に帰属する当期純損益

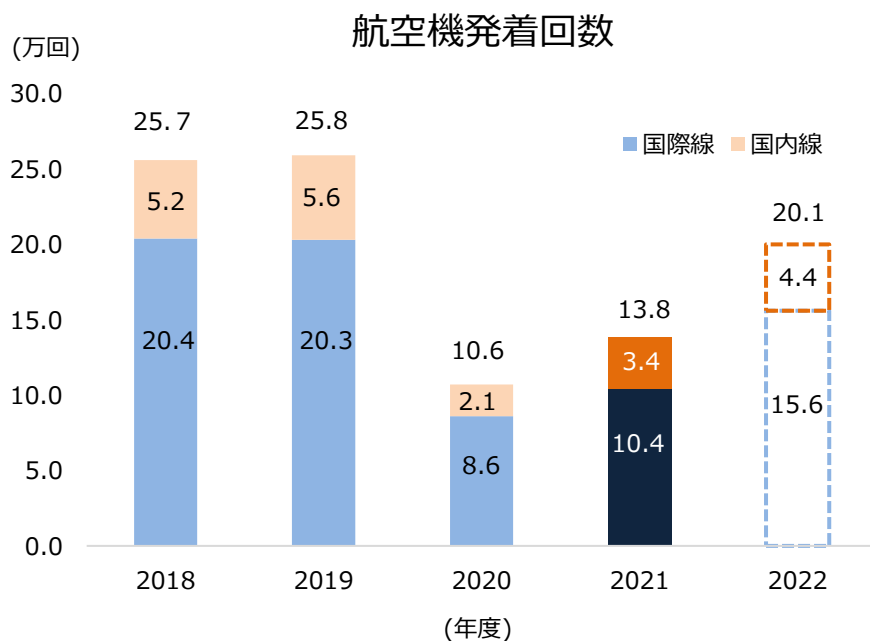
<2021 年度>

・2 期連続の損失

<2022 年度通期予想>

・3 期連続の損失となる見通し

【航空取扱量推移】 2022 年度通期は見通し

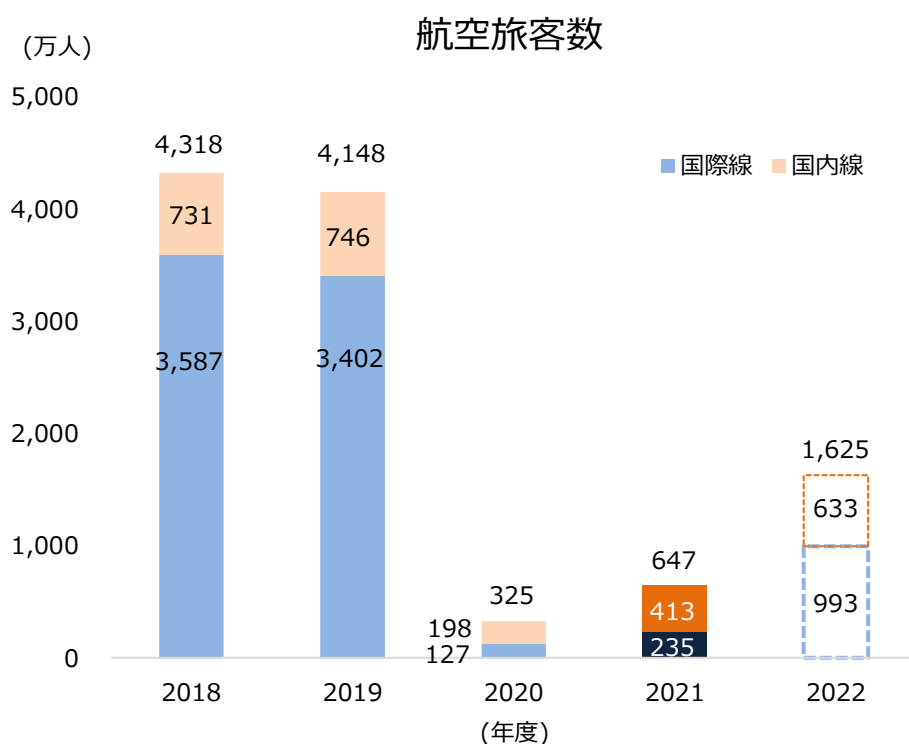


<2021 年度>

- ・全体: 2 期ぶりの増加
- ・国際線: 3 期ぶりの増加
- ・国内線: 2 期ぶりの増加

<2022 年度通期見通し>

- ・全体: 2 期連続の増加となる見通し
- ・国際線: 2 期連続の増加となる見通し
- ・国内線: 2 期連続の増加となる見通し



<2021 年度>

- ・全体: 3 期ぶりの増加
- ・国際線: 3 期ぶりの増加
- ・国内線: 2 期ぶりの増加

<2022 年度通期見通し>

- ・全体: 2 期連続の増加となる見通し
- ・国際線: 2 期連続の増加となる見通し
- ・国内線: 2 期連続の増加となる見通し